

学校 教育 目標	あいがいっぱい朝比奈小 ～ ふれあい 学びあい 助けあい ～ ◎「未来は一人じゃ創れない」人や地域とつながり、未来へつなげる夢あふれる学校づくりを目指す。 【知】：○自ら学び続け、自分の考えを深める子を育てる 【徳】：○自分も友だちも大好きな、あたたかい子を育てる。 【体】：○心と体を鍛え、自分や人の命と体を大切にすることを育てる。 【公】：○友だちや地域の人と力を合わせ、朝比奈を大切にすることを育てる。 【開】：○コミュニケーションや情報処理の力を高め、課題解決ができる子を育てる。				
学校 概要	創立 52 周年	学校長 中川 琴似	副校長 生田 豪	2 学期制	一般学級：8 個別支援学級：3
	児童生徒数： 225 人 主な関係校： 大道中学校・大道小学校・高舟台小学校・六浦南小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	大道中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<主体的・協働的に課題に向き合い解決する力> ○【より豊かな表現力】：生きる力としてのコミュニケーション能力を育む。学習の基盤となる言語能力・情報活用能力・英語能力の習得および活用 ○【自分を導き、周りを導く力】：LIM(リーダー・イン・ミー)による自分づくり、仲間づくり、集団づくり	大道中学校 大道小学校 高舟台小学校 六浦南小学校 朝比奈小学校	○他とのかかわりを大切にし、学び合う子ども ○夢や目標をもち、自らの生き方を追求する子ども ◇主体的な態度を育成する「学習活動」の実践 ◇自己有用感を醸成する「児童生徒指導」の実践 ◇他者理解力を育成する「多様性理解教育」の推進

中期 取組 目標	○【四つのワーク】：チームワーク&フットワーク&ネットワーク&ライフワークバランスを大切にしたい高信頼性組織を目指します。 ○【子どもファースト&チーム対応】：を教職員の行動基準とし、エンゲージメントを生かした学校づくりに取り組みます。 ○【リーダー・イン・ミー(7つの習慣)】：の考え方を中心に置くことで、教職員や子ども達が同じ方向を向いて教育活動を進め、生き生きとした活気のある安心できる学校環境をつくりまします。 ・教職員や子ども達が自分の行動に責任をもち、役割を果たすことにより自己有用感を高められるようにします。 ・自ら課題を見出し解決しようとしたりし、業務や学習に主体的・協働的に取り組めるようにします。 ・学校をよくするために自分ができることを探し、リーダーシップを発揮するリーダーシップ・スキルを高めます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 個に応じた指導	①個の習熟度に応じた学習支援を特別教室等で実施する。「スペシャル算数」等 ②重点研究【情報・ICT】と関連させ、個の習熟度に合わせたタブレットの活用を推進する。板書の撮影や文章の入力等を有効に使用し学びの支援とする。 ③自主学習を推奨し、成果物の例示やコメントによる励ましを行うことで意欲を喚起する。
徳 人権教育	①「あおぞら活動」での異学年交流を通して、幅広い年齢層の人と関わることで、相手意識をもって会話したり、どんな態度で接すればよいかなどを考えたりすることができるようにする。②リーダー・イン・ミーを取り入れた学習計画や行事計画を行う。③人権週間・授業参観等を設定し、児童、保護者、教職員が一緒になって人権について考えるようにする。
体 健康教育	①健康会議や保健委員会以外に、運動委員会とも連携し、安全衛生といううえで、活動の幅を広げ自主的・協働的に取り組める子の育成を図っていく。 ②年間を通し、運動を楽しむ児童を育むために計画的に取り組む必要がある。様々な運動を取り入れ、遊びを通して多様な動きを経験し、すすんで運動する児童の育成を目指す。
公 自分づくり教育 (キャリア教育)	①キャリアパスポートにリーダー・イン・ミーの考え方をリンクさせ、自分の行動を自分で決め、責任を果たしていく中で、めあてや目的に沿ってふりかえりをする機会を引き続き確保し、実施する。②自分ができることを探し、周りの人と協力して問題解決する豊かな体験活動を地域や社会との関わりを大切にしながら行う。地域人材との関わりがもてるように活動計画を立て実施する。
いじめへの対応	①児童アンケートを定期的に実施し、いじめの早期発見、早期対応等を心がけ、いじめ防止に努める。②「いじめ防止対策委員会」を毎月開催し、全教職員情報共有を行うとともに支援スキルを高める。また、積極的ないじめ認知に取組、疑いがある段階で直ちに「学校いじめ防止対策委員会」を臨時で開催し、情報収集と指導、対応にあたる。③積極的ないじめ認知に努め、複数の教職員で児童を見守り対応する体制を整える。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①主幹教諭を中心に、OJTメンターチームメンバーの指導・助言を行いながら、実践的な研修を積極的に行っていく。②中・高学年を中心に教科担任制を活用し、各々の特長を生かすとともに、教材研究の時間を確保する。 ③経験の浅い教職員に役割や機会を積極的に・計画的に与え、責任と経験による成長を促すことで、業務の1点集中を分散化する。④定時退勤日を設定し、皆が勤務時間内に退勤できるようブロック単位で業務を遂行していく。
特別支援教育	①ITや取り出しで児童の指導をする中で、児童理解を深め、全職員で共有し指導にあたる。②児童が安心して過ごせる場として特別支援教室や保健室を活用する。特別支援教室では、学習支援の他に児童の悩みや願いを児童支援専任を中心に各職員が聞き、困り感に寄り添って対応できるようにする。また、オンライン授業にも取り組む。③YPアセスメントの実施と活用をより一層推進する。
地域学校教育活動	①教育ボランティアの協力を得ながら、読み聞かせ、お話会や学級文庫の室配などを通して、読書活動を一層推進し、児童の豊かな感性を育む。また、「放課後学びの場事業」の充実を図り、基礎学力の定着を図る。②地域コーディネーターを中心に、校内環境の維持に努める。
ESDの推進	①生活単元・生活科・総合(よこはまの時間)等を中心に学習活動・学校生活の中にSDGsの視点を意図的・計画的に取り入れることで、グローバルな視野をもち、「持続可能な社会に向けて行動する力」を育む。 ②企業や地域と積極的に連携した「はまっ子未来カンパニープロジェクト」を活用し、社会参画・地域貢献を図る。 ・生活廃材を再利用した「段ボール劇団(市民図書)」の理念をもとに学習と生活の統一を図る。
a15	b10